

公益社団法人日本クラフトデザイン協会

事業評価委員会 議事録（親と子のふれあい交流活動）

日 時：平成28年3月19日（土） 14:00～17:00

※第2回定例理事会の議題として審議された

場 所：日本クラフトデザイン協会事務局 （東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-15-408）

出席者：（理事）岡本昌子 磯谷晴弘 水野誠子 相川繁隆 石原実 海野えり子 菅野靖

関根正文 西川雅典 采畷真澄

（監事）露木清勝

●実施内容について

- ・担当理事から事業について報告がなされた。

今年度は夏期は箔、冬期はフェルトのワークショップを実施した。自然・風土とそこで暮らす人々の工夫や知恵から生まれたクラフト文化をワークショップとセミナーを通じて感じてもらうことを目的とした。

■夏期：「箔で描くきらきらブローチ」

実施日：平成27年8月20日（木）

会 場：新丸ビル10F「エコツェリア」

参加人数：50名

■冬期：「カラフル模様のフェルトコースター」

実施日：平成28年1月16日（土）

会 場：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

ミッドタウン・タワー5F

参加人数：33名

■第55回日本クラフト展に於ける広報展示

平成28年1月8日（水）～17日（日）

会 場：東京ミッドタウン・デザインハブ 第55回日本クラフト展会場

- ・夏期、冬期のワークショップ共に参加者に配布するためのテキストの作成を行った。

内容は扱う素材の歴史や技法等図版を交えて作成した。テキストは参加者以外にも関係機関などに送付した。事業実施後も親子の話題を継続させるツールとして有効であった。

- ・参加者が目標の人数に達しなかったものの、夏のワークショップは募集開始から僅かの時間で定員を超える申込みがあった。しかしながら、夏冬ともに風邪等による当日のキャンセルによって結果的に参加者が減ってしまった。本事業の注目度の高さは増していることが実感できる。今後、キャンセル等を見込んだ募集や申込みから実施日までの間のフォローについて検討すべきである。

以下、各項目の担当理事からの報告と評価委員の意見等

●事業実施の準備体制について

- ・実行の準備と実施については会員による実行委員会を組織し行った
- ・委員会は計4回開催し、テーマの設定から具体的準備まで詳細を詰めることができた～積極的な協力を得られた。個々のプログラムの具体的な準備は適格に進められたと思う。今後は広報について、特に情報提供の相手について開拓と検討が必要である。

●告知・募集の方法について

- ・夏期はエコキッズのプログラムとして開催し、先方の持っているネットワークに依るところが大きかった。冬期は募集チラシを作成、HPやメールマガジン、フェイスブックで広報を行った

●実施内容について

- ・夏冬、扱う素材やテーマに変化も持たせて実施した。どちらも参加者の関心は高く、適切な設定であったと考える
- ・全体の時間配分は概ね良かった。

●今後の展開について

- ・今後も素材を変えて多彩なクラフトデザインの魅力を発信していくことが望ましい。また同素材でも工法等の違いを活かし様々な展開が可能である。
- ・現在のレクチャー+ワークショップというスタイルは、この事業の立ち上げから続いている。参加者により理解を深めてもらえるよう、これまでの実績を振り返り事業スタイルも検証した方が良い。
- ・参加者のその後について、なかなか難しい作業ではあるが、結果としてどのような効果が出ているのかを、アンケート等の方法で追跡調査する必要がある。その設問等の精査も重要であるので、先ずその検討から始めてほしい。

## ●その他

- ・アンケート等によると参加者の満足度は高く、本事業を通じてクラフトに親しみ、またそれをきっかけに親子の対話を深めていく目的は達成されたものとする。
- ・第 55 回日本クラフト展会場での広報展示は、会期中 9000 人を超える入場者にこの事業の内容と意義を伝えることができた。日本クラフト展の入場者は前年度より約 500 人増加している。また、冬期の会場はクラフト展会場からも様子をうかがうことができ、二事業の結びつきが相乗効果を生んでいると考えられる。
- ・今年度は北海道江別市での企画展示事業の中で親子を対象としたワークショップを会期中 3 回実施することが出来た。地方での開催、また本事業の派生効果として展開できたことは評価できる。今後も、様々な形で他団体等と連携をはかりながら進めていくことが期待できる。

以上